

# ますみ

神奈川県立横浜平沼高等学校同窓会



125周年記念グッズ  
上から「キーホルダー」  
「クリアファイル3種」  
「手ぬぐい」



125周年横断幕の前で



- 座談会～校歌を語る～  
瀧井敬子さん(62期)  
二宮玲子さん(75期)
- 会長挨拶
- 母校創立125周年記念式典
- 平翠戦
- 評議員会・総会報告
- 改選理事紹介
- 学校だより
- 支部だより
- 先輩セミナー
- 縦の絆
- ますみだより
- 終身会員・寄付者ご芳名
- 校史あれこれ
- 十年ひとふし
- 会員の作品



座談会 集合写真

# 座談会～校歌を語る～

母校創立125周年記念行事にむけて

2024年3月26日(火) 開催

私たちの母校は来年創立125周年を迎えます。母校の歴史を語るにあたって必ず思い浮かぶものの一つに「校歌」があります。

今回は、1916(大正5)年の校歌制定以来、永きにわたって歌い継がれてきた母校校歌について、音楽家として活躍し、また我が校の校歌とも深く関わりのある、瀧井敬子さん(62期)と二宮玲子さん(75期)をお招きして、座談会形式で語っていただきました。

座談会には母校校長の小島由美先生、真澄会会長の皆藤慎一さん(62期)にもご出席いただきました。

司会は真澄会副会長・松本伊戸美さん(73期)が務めました。どうぞ「校歌」にまつわる皆さんの想い、そして、専門家のお二人の視点から語られる様々な事柄について、お読みいただければと思います。

※以下、司会者を「司」、出席者をお名前一文字で表記させていただきます。

## 瀧井敬子さん(62期)



東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。同大学大学院修士課程修了。音楽学者・音楽プロデューサー。元東京藝術大学特任教授。元くらしき作陽大学特任教授。元国立西洋美術館客員研究員。専門分野は音楽学。

## 二宮玲子さん(75期)



東京藝術大学作曲科卒業。石桁真礼生、松村禎三、浦田健次郎の各氏に作曲を師事。黛敏郎氏に管弦楽法を師事。洗足学園音楽大学非常勤講師(作曲理論部及び音楽音響デザイン科)を経て、現在、武蔵野音楽大学非常勤講師(作曲理論部)、中央大学法学部非常勤講師。

### \*校歌との出会い

**司** まずは、「校歌」との出会いということで、入学時、初めて校歌を聞いた時の印象、また何かエピソードがあれば伺いたいと思います。

**瀧** まず不思議な校歌だと思いました。音楽科教師であった佐藤一夫先生が「校歌」の歌唱指導を熱心にされて、「他校のとはまったく違う芸術的な校歌である」と何度も聞かされました。ですから、どんなところが芸術的なのか良くわからないまま、「そうか、わが校歌は特別なのだ」と、納得したことを覚えています。私は佐藤先生との出会いがあって音楽の道に進むことになり、幸田延

の研究をした現在では、平沼の「校歌」は日本近代洋楽史において見過ごせない大事な作品ではないかと考えています。

**二** 私も佐藤先生が在職中の生徒です。入学後、講堂に集められて、佐藤先生が「6回転調しているのが素晴らしい」と熱弁を振るわれ、一節ずつ歌って覚えたことを記憶しています。野球の応援や平翠戦、応援団による応援練習の時などに校歌を歌うのは楽しかったですね。

**皆** 当時は難しい曲だと感じていたぐらいでしたが、歳を取ってから曲のすばらしさをすごく感じるようになってきました。昨年79期の音楽コンサートの最後に何年かぶりに

歌いしましたが、すんなり歌えてびっくりしました。

**司** 在学時皆藤会長はオーケストラ部に所属していたそうですが。

**皆** 伴奏のアレンジが素晴らしくクラシック的だと感じていました。

**司** 小島先生は、昨年の入学式の式辞で校歌の冒頭の歌詞「学びの道に勤むは…」を引用されて、新入生に「高校生活の本分」を説かれていました。卒業生としては嬉しく拝聴しました。着任されて初めて校歌をお聴きになった時の印象は？

**小** いわゆる校歌らしくない校歌だなと思いました。校歌には似たようなメロディーラインがあるものが多いと思うのですが、そうではなかったので驚きました。しかしメロディーラインに決まりがないことがあって魅力的で、後半のメロディーの盛り上がりも素敵で素晴らしい校歌だと思いました。

**司** 校歌はどのような場面で歌っていましたか。

**皆** 講堂に集まって校歌と応援歌の練習はかなりしていました。

**瀧** 平翠戦や野球の応援でよく歌いました。

**二** 応援団が行った校歌指導も大変楽しい思い出です。

**小** コロナ禍で校歌を歌えない状態が続いていましたが、やっと5類になりましたのでこれからは入学式や卒業式以外でも、体育祭

や合唱コンクールなど機会を見つけて歌っていきたいと思います。

**司** 入学式でオーケストラの伴奏でコーラスが始まると、冒頭の2小節で、「あれ？荒城の月かな」と式場がざわざわするのは例年のことに思われますが。

**瀧** 瀧廉太郎の「荒城の月」は1900(明治33)年作曲。校歌は1916(大正5)年の作曲ですが、神奈川県立高等学校の設置開校が認可されたのが明治33年なので、記念の意味を込めて荒城の月のフレーズを入れた可能性もあるのではないのでしょうか。こういうことは欧州ではよくあることです。

### \*「校歌」の旋律と幸田延

**司** 二宮さんにお伺いします。作曲をなさる立場から、母校の校歌の旋律についてはどのように感じですか。特に魅力的な点についてお考えになっていることがあればお聞かせください。

**二** 平沼高校の校歌は『レレソラシラソ』という「荒城の月」の冒頭のフレーズが主題となっていて、全曲はこの主題で見事に統一されています。全体はト短調で始まる8小節の大楽節二つの前半と、ト長調(同主長調)で始まる8小節の大楽節二つの後半からできています。そして合計四つの大楽節中、最後の大楽節を除く三つの大楽節に、「荒城の月」の主題が用いられています。多少専門的になりますが、前半の第二楽節では、「荒城の月」の主題は平行長調の変ロ長調で始まり(ファファシドレドシ)、次の4小節で主調(ト短調)のナポリタン6(借用和音)が半音階的に導入されて突然主調に戻り、続けてドッペルドミナント(借用和音)を経て半終止(属和音)で前半の第二楽節を

終えます。このあたりの半音階的な和音の使用は、幸田延が留学していた19世紀後半の後期ロマン主義的なハーモニーが大胆に用いられており、注目に値します。同主長調で始まる後半の第一楽節では、「荒城の月」の主題は何とアウフタクト(上拍)によって拍節構造に変化をつけて登場します。(レ・ソラシラソ)次の4小節で「荒城の月」の主題は立て続けに2度上の短調(イ短調)で、同じくアウフタクトのリズムで登場(ミ・ラシドシラ)、その後すぐにト長調に戻ります。そして後半の第二楽節で、ようやく「荒城の月」のテーマから解放され、金管のファンファーレのオブリガートが似合う新たなテーマが力強く全曲を締めくくります。この「荒城の月」の主題労作による統一的な作曲法と言い、短調に始まり借用和音の使用による大胆なハーモニーを経て、後半は平行長調に転調し、高らかに勝利を歌うという劇的な構成(なんとベートーベンの第五交響曲、ブラームスの第一交響曲、チャイコフスキーの第五交響曲と同じ)と言い、幸田延が学んだ当時の西洋クラシック音楽の最高の作曲技法が、平沼高校の僅か32小節の校歌に凝縮されているのには驚くばかりです。そしてそれを校歌だからと言って躊躇する事なく書いてしまう、幸田延の勇気と情熱は素晴らしいです。

**司** 初めて聞く人は、冒頭の2小節が瀧廉太郎の「荒城の月」と同じであることに気づき、なぜだろうという疑問を持ったりするのですが、そのあたりのいきさつについて瀧井さんはお調べになっていますね。

**瀧** 「荒城の月」のパクリではないかと言われることもあります。決してそうではない。幸田延は幸田露伴の妹です。幸田文(露伴の娘)の随筆からも窺い知ることができるように、幸田家一族はとて気位が高いのです。パクリと考えるのはあまりに短絡ではないでしょうか。

幸田延は日本の音楽分野における国費留学生の第一号であり、ウィーン音楽院に試験を受けて合格して卒業し、帰国後母校の教授となります。教授となった彼女は瀧廉太郎の非凡な才能を見抜き、瀧廉太郎は幸田延の愛弟子となります。ドイツ留学で病を得て、帰国を余儀なくされた瀧廉太郎の23歳という若すぎる死に、幸田延は師と



してどんなに心を痛めたことでしょうか。実は、瀧廉太郎は1900(明治33)年6月にドイツ留学が正式に決まっていたのですが、なぜか出発は翌1901(明治34)年4月まで延期させられています。延期の理由は謎なのですが、私は1901(明治34)年3月30日に東京音楽学校から編纂出版された『中學唱歌』のプロジェクトの存在が背景にあったからだと思います。国家の将来を担う男子中学生(旧制)のために、新しいハイカラな教科書『中學唱歌』を編纂出版することは、幸田延教授をはじめとする東京音楽学校首脳陣および文部省にとって、音楽学校の存在意義を世間に問う大仕事でした。外国の曲の旋律を転用して、それに日本風の内容の歌詞を後づけするという従来のやり方をやめ、日本人独特の旋律による唱歌を作るためには、瀧廉太郎は不可欠な人材でした。一人3曲まで応募可能という規定で作品を募集すると、200余曲が集まり、38曲が選ばれたのですが、瀧廉太郎作曲の「荒城の月」「箱根八里」「豊太閤」は、3曲すべてが選ばれています。『中學唱歌』出版の翌日の1901(明治34)年3月31日に「瀧廉太郎の留学送別演奏会」が催され、「荒城の月」が音楽学校の男子生徒によって歌われ、一週間後の4月6日、瀧廉太郎は晴れてドイツへ向け、横浜港を出帆しました。ここで、県立横浜平沼高等学校の前身を少し辿ってみましょう。1900(明治33)年、神奈川県立高等女学校の設置が認可されました。そして翌1901(明治34)年、神奈川県立高等女学校と改称されます。何か不思議に時を同じくしていると思いませんか？幸田延が校歌を作曲した1916(大正5)年は、神奈川県立高等女学校の時代です。よ。



この時期の延は、「男尊女卑」の勢力から騙し討ちのような形で教授の座はすでに追われていて、皇族や上流階級の師弟にピアノを教えることに新たな活路を見出していました。神奈川県立高等女学校の校歌の作曲にあたって、ハイカラな旋律をもとめて幸田延が愛弟子瀧廉太郎のことを追憶し、「荒城の月」の冒頭2小節を敢えて借用したとは考えられないでしょうか。お洒落で芸術的な仕掛けをしたとは思いませんか。

**司** 1916(大正5)年の校歌制定が立太子礼奉賀式(のちの昭和天皇が正式に皇太子になった式典)の記念事業の一つとして行われたこと、また、第2代相澤校長(1913年着任)の創立30周年記念式典における式辞の中で「美的思想養成に関して博士(佐佐木信綱)に注文したので優美にできていると思う」という言も残されていますね。

**瀧** 前年の1915(大正4)年には、幸田延は貞明皇后の誕生日を祝って「藤のゆかり」を作曲、さらには大正天皇即位記念式典のために混声四部合唱付管弦楽曲「大礼奉祝曲」を作曲しています。

**\*新校歌制定を希望する動きと歌詞の書き換え**

**司** 実は共学になったのち、一時「新しい校歌を」という動きが、特に男子生徒の中であったように伺っています。「平沼時報」にも取り上げられていますね。会長も男性の立場から歌いにくかったということもありましたか。

**皆** 歌いにくいというより難しいという思いはありました。

**瀧** 先にお話したように、『中學唱歌』は日本の未来を背負う男子中学生(旧制)のための教科書です。つまり、「荒城の月」は男



子のための唱歌として誕生したのです。  
**司** 佐藤先生が在職中にも校歌を新しくしてほしいという意見が出されたことがあるようですが、「お前たちにこの校歌の良さはわからないのか」と一喝され止んだと聞いたことがあります。ただ、戦後、佐佐木信綱先生の歌詞が戦前までの価値観を反映したものであるとして、第二校歌制定の動きはあったようです。作詞は生徒、作曲は芥川也寸志先生に依頼する段取りだったようです。しかし、佐佐木先生自らが「をしへの道のみこと」という歌詞を「学びの道にいそむは」と書き換えてくださり、幸田延の旋律を現在まで歌い継ぐことができています。

**瀧** ちなみに、佐佐木信綱は、『中學唱歌』の選者の一人でもありました。彼は貞明皇后ら皇族に和歌を教え、幸田延はピアノを教えていました。最後の締めくくりとして、重要なことをもう一つだけ。私が調べたところでは、平沼の「校歌」は、幸田延が作曲した唯一の校歌です。

**\*寄贈された校歌スコア(楽譜)**

**司** 二宮さん、今回寄贈していただいた校歌のスコアについて、どのようなものか、また、寄贈に至ったいきさつ等、伺いたいと思います。  
**二** 「79期が一度も同期会を開催したことがないので、音楽とかかわっている人たちが中心となってコンサートをやることにしたい。ついでにコンサートの最後に出演者全員と観客(79期生多数)で校歌を歌いたいのでオーケストラアレンジをお願いしたい」との相談が、プロデューサーの79期吉岡小鼓音さんからありました。佐藤先生が書かれたオーケストラ版が行方不明と聞きましたので、少しでも佐藤先生に近づけるようにという思いで、ピアノ伴奏の合唱譜や吹奏楽の楽譜を参考に、取り敢えず5人揃えば演奏ができるフレックス版のスコアを書かせてもらいました。当日は会場が一体となった大合唱でした。これからもいろんなところで校歌を歌い継いでほしいと思います。

**\*校歌への思い**

**司** 瀧井さんも二宮さんも、以前「先輩セミナー」の講師として在校生にお話をしていた

だいたことがございますが、改めて後輩たちに「校歌への思い」を伝えていただけますか。  
**二** 幸田延が唯一残した芸術性の高い校歌ですので、誇りをもって歌い続けてほしいと思います。平沼高校の校歌は世代を超えて歌えるものだと思います。

**瀧** 創立125年の歴史の重みを感じながら歌っていただけたらと思います。

**小** そのお言葉を受け止めさせていただきます。人も変わるし、校舎も変わりますが、校歌は変わらず私たちのもとにあります。長く歌い継がれるようにしてまいります。

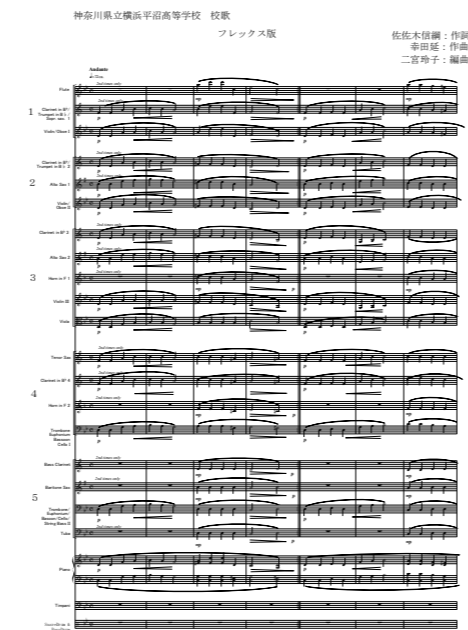
**皆** 125周年式典の最後は参加者全員の校歌で締めたいですね。

**司** 本日は貴重なお時間を割いていただき有難うございました。

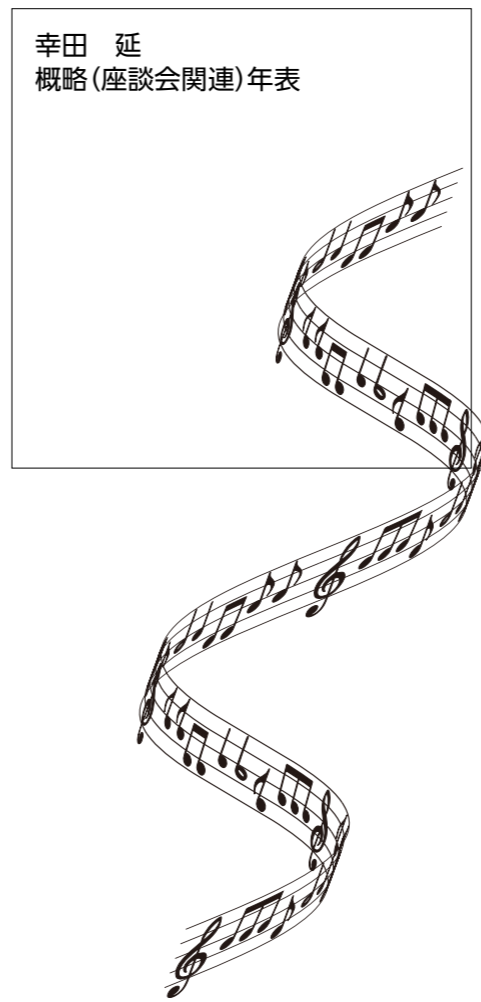
瀧井敬子さんから以下の書籍を寄贈していただきました。ありがとうございました。

- 漱石が聴いたベートーヴェン 音楽に魅せられた文豪たち(中公新書)
- 夏目漱石とクラシック音楽(毎日新聞出版)
- 謎のヴァイオリン クリスティアン・ミュラー著 瀧井敬子訳(新潮社)

記録編集:鈴木久美子(75期)  
写真:桐生 達夫(65期)



寄贈されたフレックス版校歌楽譜の一部



- 1870(明治3)年 4月19日生誕
- 幼いころは杵屋えつに三味線、長唄の手ほどきを受ける
- 1872年 東京女子師範学校附属小学校(現お茶の水女子大)に入学
- 初代 山勢松韻に箏曲を師事
- 1881年 アメリカ合衆国の音楽教育者ルーサー・ホワイトイング・メーソンと出会う。
- ピアノをメーソンに師事
- 1882年 メーソンの勧めで、音楽取調掛に編入学
- ピアノを瓜生繁子に師事
- ヴァイオリンをフランツ・エツケルトに師事
- 1884年 音楽取調掛 第一回卒業生として卒業後、研究科に在籍
- 1887年 音楽取調掛は東京音楽学校に改組
- ルドルフ・デイトリッヒにヴァイオリンを師事
- 1889年 第一回文部省派遣留学生に選ばれる
- アメリカボストンのニューイングランド音楽院
- オーストリアのウィーン音楽院
- 1895年 ウィーン音楽院時代に、授業の課題として「ヴァイオリンソナタ 第1番 変ホ長調」(未完)作曲(日本人が作曲した初のソナタ)
- 11月帰国、12月母校の教授に任命される
- 瀧廉太郎、三浦環、本居長世、山田耕作らを育成
- 1900年 瀧廉太郎「荒城の月」作曲
- 1909年 9月、東京音楽学校教授を退職となる
- ヨーロッパ音楽事情の視察を目的として渡欧
- 1911年 退職満期、退職 東京麹町区紀尾井町(現千代田区紀尾井町)に家を購入し、家庭音楽の普及を目指して「審声会」(幸田露伴が命名)という名称のピアノ教室をひらく
- 1916年 神奈川県立高等女学校(現神奈川県立平沼高等学校)の校歌が発表される
- (作詞 佐佐木信綱)
- 1937(昭和12)年 女性として最初の帝国藝術院会員となる
- 1946(昭和21)年 逝去(享年76歳)



寄贈されたフレックス版校歌楽譜



2023年10月3日(火)、母校校長室にて、二宮玲子さん(75期)の編曲による、母校校歌記念楽譜の贈呈式が行われ、また、この貢献に対し母校より感謝状が贈られました。



かながわ校歌祭で披露する4部合唱の楽譜です。

2023年10月21日(土)県立青少年センターホールにて開催された「第18回青春かながわ校歌祭」についての記事は、23ページに掲載しています。

## 会長挨拶



### 創立125周年に向かって 真澄会会長 皆藤 慎一(62期)

5月19日の総会で真澄会会長に再任されました。引き続きあと2年、真澄会会長として務めて参ります。来年、母校は創立125周年を迎えます。創立記念事業は創立100周年に続き、次の創立150周年に繋ぐ記念事業にしたいと思っています。そして今年

2020年度に創立120周年事業として計画していた復活平翠(翠平)戦を実施します。今年度は翠嵐高校の創立110周年記念事業、来年度は平沼高校の創立125周年記念事業として在校生の対抗戦として実施します。かつてのように七夕の時期に三ツ沢競技場というわけにはいきませんが、文化系の対抗戦も行います。これらを機に両校の交流が深まることを期待しています。また、現役生の対抗戦に加え、OB・OG戦も計画しています。両校の同窓会は様々な形で平翠(翠平)戦を支援していきます。昨年度、真澄会では、まなびや基金を通じてグラウンドに照明を設置しました。今年度はテニスコートの照明を設置します。会員の皆さまのご寄付で母校施設の整備に協力し

ていくことは真澄会の大きなミッションと考えます。また昨年度より実施した現役生支援の給付型奨学金も同様です。このような母校支援の資金として会員の皆さまのご寄付をお願いします。今秋より郵便料金が値上げされます。これは真澄会経費のほぼ半分を占める会報発行費に大きく影響します。会費の増収策も実施していきませんが、会報のペーパーレス化などによる経費削減策にも取り組んでいく必要があります。私たちの母校である平沼高校を応援・支援したい方、同窓生のコミュニケーションに興味ある方々に真澄会運営のご協力をお願いします。

### 母校創立125周年記念式典は 2025年11月7日(金)開催が決定

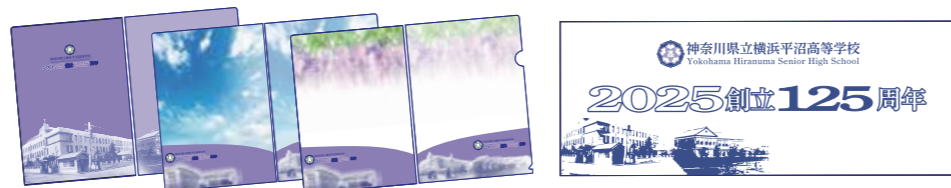
母校創立125周年記念事業実行委員会(以下、実行委員会)は2025年11月7日(金)午後にパシフィコ横浜国立大ホールで母校創立125周年記念式典を挙行することを公表しました。実行委員会は委員長(皆藤慎一真澄会会長)、副委員長(小島由美校長、深山由希子PTA会長)のもと財務部会、記念事業部会、式典部会などで構成され記念式典に向け関連事業などを企画・準備しています。この事業を成功させるために寄付金の募集も開始いたします。寄付金については真澄会報に同封のプリントをご覧ください。

記念式典については生徒、保護者だけでなく卒業生(真澄会員)も参加できます。記念式典については真澄会ホームページでお知らせいたします。

### 表紙で紹介しました125周年記念グッズ販売について 購入ご希望の方は真澄会事務局までご連絡ください。

当日の式典会場や真澄会事務局でもお買い求めいただけます。  
※2024年10月より送料が変わります。

アイテムと価格	数量	送料	アイテムと価格	数量	送料
クリアファイル 1セット400円	1セット3枚	120円	キーホルダー 1個500円	1個	84円
	2セット6枚	140円		2個	84円
	3セット9枚	210円		3個	94円
	4セット12枚	210円		4個	94円
	5セット15枚	250円		5個	94円
手ぬぐい 1枚500円	1枚	94円	手ぬぐい1枚+キーホルダー1個	140円	
	2枚	140円	手ぬぐい2枚+キーホルダー2個	140円	
	3枚	210円	手ぬぐい3枚+キーホルダー3個	210円	
	4枚	210円			
	5枚	250円			



## 平翠戦

2019年に検討をはじめた平翠戦がコロナ禍をはさみ、漸く実施されました。これは翠嵐高校が2024年に創立110周年、平沼高校が2025年に創立125周年を迎えるので、それぞれの周年記念事業の一環として両校および、両卒業生によるスポーツ・文化交流事業(平翠戦)を2年間に渡り実施するものです。今年創立110周年を迎える翠嵐高校の文化祭初日(6月22日(土))に、同校校長室にて平翠戦のオープニングセレモニーが行われました。長濱徳克副校長の司会により加藤俊志校長の開会宣言に続き、翠嵐会江成正彦会



長からは翠平戦のきっかけや歴史を、真澄会会長からは平翠戦の思い出などが話されました。その後、翠嵐高校生徒会長から「このような場を設けていただき、ありがとうございます。翠嵐高校の生徒にまだ周知されていないので、もう少し徹底して周知していきたいと思っています。OBからの熱烈なおファーがあつて今回実現されたとのこと、生徒も全力で臨める様な雰囲気づくりを私たちは行ってきたいと思っています。よろしくお願いします。」と力強い言葉がありました。これに先行して、両校の現役生徒同士によ

るサッカーと剣道の試合が行われました。2024年6月15日(土)に実施された剣道の試合では、横断幕が用意され伝統ある優勝旗も飾られました。翠嵐高校の長濱副校長からは過去の平翠戦の事にも言及し、過去のご自身の思い出などを交えた挨拶がありました。試合後、駆けつけた先輩方が自ら防具を付け、両校の生徒たちに稽古を付けていました。有意義な時間となりました。真澄会からは現役生徒に飲み物の差し入れをしました。



## 評議員会報告

2024年4月21日(日)、13時30分から16時30分まで、母校第二視聴覚室とオンラインの併用で評議員会が開催された。評議員は視聴覚室出席者18名、オンライン出席者10名、その他、真澄会理事・事務局スタッフが出席した。議長には後藤(小磯)由里子さん(71期)が選出され、活発な議論や意見交換がなされ議案書の内容はすべて議案通りに承認された。柗崎一之監事(62期)、柴田典明監事(72期)による監査報告も承認された。第1、2号議案2023(令和5)年度事業報告



第7号議案真澄会給付奨学金規定の改正  
第8号議案真澄会激励金交付規定の改正  
第9号議案真澄会特別支援金交付規定の改正  
第10号議案役員改選の件  
意見交換の中で評議員から「寄付の仕方がよくわからないので、わかりやすく紹介してほしい。」や「特別支援金と激励金の違いを明確に説明してほしい。」「どこにどのような援助をしているのか明細が知りたい。」など有意義な意見や質問が出され、総会議案書には特別会計の支出明細を追加するなどした。

及び決算報告  
第3、4号議案2024(令和6)年度事業計画及び年度予算(案)  
第5号議案真澄会会費納入方法の変更について  
第6号議案真澄会会費納入方法の変更に伴う会則の改正

## 総会報告

2024年5月19日(日)母校小ホール、およびオンラインにて令和6年度真澄会総会が行われた。総会に先立ち、須藤愛子さん(50期)の紺綬褒章授与式が行われ小島由美校長から紺綬褒章が授与された。その後、総会が開催され、小ホール対面の真澄会会員46名(真澄会理事・監事・事務局スタッフ含む)、オンラインの会員5名及び来賓として小島由美校長、川上司副校長、川崎幸教頭、島崎理恵子事務局長が臨席された。その後の審議では真澄会員の皆さまが



議案説明に熱心に耳を傾け、活発な議論が行われ第1号議案から第10号議案まで全て承認された。(第5号議案と第6号議案の承認によって変更になる会費納入方法については詳細は8ページに掲載しています。)また、総会での会員からの意見を踏まえ今後の課題としたのは以下の点である。(1)本議案提案前に未納分2万円を納入した会員等に対しては会員の不利益にならないように柔軟に対応していく。(2)125周年記念事業の一環として「一括納入会費制度」を選択することを推奨するので、同時に「125周年限定寄付金制度」の立ち

上げの検討を進める。  
(3)今後も真澄会活動を充実したものにするために「目的別寄付制度」について中身の検証を行い、資金確保に努めると同時に真澄会報のペーパーレス等を実現し経費削減に努める。

総会議案書は真澄会のホームページに掲載されています。



We don't say

NO

どんな要望や変化にも柔軟に対応し  
「NO」と言わないのが私たちの誇りです

業務内容  
イベント・展示会・講演会・式典・コンサート・演劇  
ディスプレイ広告・web・印刷デザイン・映像制作

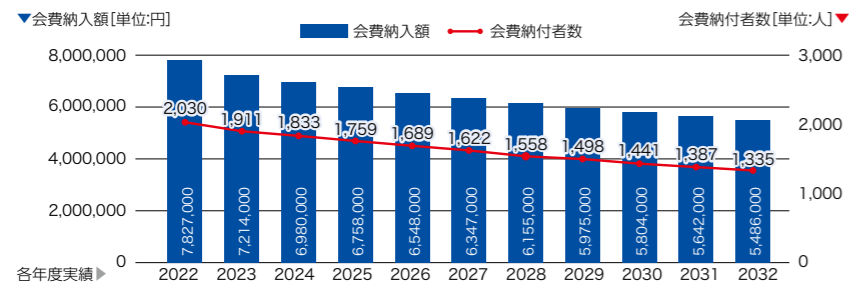
株式会社オフサイド  
横浜市西区みなとみらい2-3-5 クイーンズタワー C 18階 TEL: 045-661-0622



HPはこちら

## ■真澄会会費「一括納入会費制度」選択制の導入

2022年実績をベースとした会費納入額と納付者数の推移



母校創立125周年を機に来年度より会費納入方法を抜本的に改革します。(7ページ総会報告参照)  
真澄会の活動は皆様の会費によって運営されていますが、会費の納入率の低下に歯止めがかかりません。このままの納入率が続くと仮定すると、2022年に782万円あった

会費収入(納付者数2030名)が、2027年には634万円(1622名)に、さらに2032年には548万円(1335名)にと会費収入(納付者数)の激減が想定されます。これまで増収策やコスト削減策など対策を講じてきましたが、納入率向上に効果はありませんでしたので、年齢制限のあった終身会費制

度を見直し、「一括納入会費制度」選択制を導入します。新会員は卒業時にこの制度を利用すれば、以後の年会費の納入は不要になります。また、この制度を全会員に適用することで真澄会では会費納入記録作業の軽減が見込まれます。この制度を利用しない会員はこれまでどおり年会費(2,000円)を納入していただくことになります。卒業後5年間の会費免除中の会員は、入会金4,000円(払込み済み)に加え10,000円(合計14,000円)の納入で「一括納入制度」を選択できます。125周年記念事業の一環として2025年度・2026年度の2年間で推奨期間としているので、是非この機会に「一括納入会費制度」選択をお勧めします。

### 【「一括納入会費制度」選択制】

### 今回の変更提案 [A・Bの選択制]

	会則6条に基づく現状の制度	(A)現状を継続する制度	(B)新たに設定する制度
会員(70歳未満)	年会費2,000円	年会費2,000円	「一括納入会費制度」新設 年齢制限なし 一括納付:20,000円 (以降年会費免除)
会員(70歳以上)	「終身会費制度」選択可 一括納付金額:20,000円	年会費2,000円	
会員(80歳以上)	会費免除	会費免除	
卒業後5年間の 年会費免除中の会員	年会費2,000円 5年間免除	年会費2,000円 5年間免除	「一括納入会費制度」選択可 一括納付:14,000円 (入会金との合計) (以降年会費免除)

横浜平沼高等学校学校同窓生の皆さまへ

### 母校の部活動支援(「サポーターズ倶楽部」)への寄付のお願い

日頃より母校部活動支援へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。母校の部活動がインターハイや全国大会に出場する場合、開催地によっては多額の遠征費用がかかります。そこで真澄会では、母校の部活動の活躍を支援することを目的として、「真澄会サポーターズ倶楽部」を2020年に立ち上げました。母校部活動支援を継続するために「真澄会サポーターズ倶楽部」の趣旨をご理解いただき、真澄会会員の皆さまに【一口1,000円以上】のご寄付にご協力いただきますようお願い申し上げます。

今年度の支援内容は次の通りです。

6月16日(日)、神奈川県予選決勝戦で女子ハンドボール部は高津高校に勝利し、2年連続4回目のインターハイ出場を決めました。

真澄会ではインターハイ開催地が福岡と遠隔地であることから、母校からの遠征支援金要請に応じて、遠征費用の一部として60万円の特別支援金を7月7日の壮行会で贈呈いたしました。

お振込みの場合は、お名前・旧姓・期を明記のうえ、下記の銀行口座にお振込みください。【例;ヤマダハナコ(サトウ)75】

横浜銀行 本店営業部(200)普通預金 口座番号 6180970  
神奈川県立横浜平沼高等学校同窓会真澄会 代表 皆藤 慎一  
かか'ワケリツ ヨコハマヒラマ コウカ'ツコト'ウツウカイ マシカイ'ダ'イヨウ ガイト'ウシツ

## 懇親会開催

総会後の懇親会はホテル・ザ・ノット ヨコハマに場所を移し、小島由美校長先生など来賓4名を含め62名が参加者して学校生活の動画等を見ながら和やかに会食を楽しみました。会長4期・顧問4期、合計15年にわたり真澄会を牽引していただき、今期退任される鈴木宏司顧問に花束を贈呈し、感謝の意を伝えました。最後は正木裕二さん(73期)のリードにより、校歌斉唱及びエールが行われ、最後は「フレーフレー平高」で散会となりました。



### 改選理事紹介

右記の現理事・監事及び新任理事の改選が行われ原案通り承認されました。

- 【継続理事】 皆藤 慎一(62期:6期目)
- 【現理事】 14名  
桐生 達夫(65期:4期目) 坪井 俊之(75期:4期目) 豊田 哲志(75期:4期目) 山本 克己(72期:3期目)  
牧野 薫(73期:3期目) 平井 正之(74期:3期目) 小野 力(71期:2期目) 正木 裕二(73期:2期目)  
松本(奥坂)伊戸美(73期:2期目) 矢崎 真理(74期:2期目) 木原 透(75期:2期目) 鈴木(茅野)久美子(75期:2期目)  
加藤(新山)未知(82期:2期目) 岡本 康宏(通48期:2期目)
- 【現監事】 2名  
栢崎 一之(62期:3期目) 柴田 典明(72期:2期目)
- 【退任顧問】 1名  
鈴木 宏司(59期)
- 【退任理事】 9名  
浅井 裕司(66期) 岩本 伸一(67期) 沢内 民雄(67期) 遠藤(菊池)玲子(71期)  
吉原 直樹(71期) 中川 尚美(73期) 中山 知信(77期) 高橋 研二(88期)  
佐藤 智嗣(92期)
- 【新任理事】 3名  
柴田 康男(73期) 野球部  
渡邊 和彦(75期) 応援団  
須藤 尚紀(78期) 応援団・水泳部



柴田新理事 渡邊新理事 須藤新理事

### 2025(令和7)年度 総会・懇親会のご案内

- \*総会  
○日時:2025年5月18日(日)13時30分より ○場所:母校小ホール(オンライン併用)  
歴史資料展示室は12時30分より開室しています。見学した後、小ホールにお越しください。
- \*懇親会  
○時間:同日16時より ○場所:ホテル・ザ・ノット ヨコハマ ○会費:5,000円(当日集めます)  
○申込み 参加希望者は必ず事前に真澄会に申込の上、総会にもご出席ください。  
〒220-0073 横浜市西区岡野町1-5-8 横浜平沼高校内真澄会  
Tel.045-311-3356(火曜日10時~15時のみ入室)  
事務局 e-mail:jimukyoku@masumikai.org

### 121期評議員



121期生の評議員です。  
左から 山本修平さん 渡邊泰成さん 服部理旺さん 中田優斗さん



交通事故、相続・遺言、離婚、借金・債務整理、刑事、労働、不動産、借地借家、会社法務、誹謗中傷等

## ベアヴェニュー法律事務所

さとう たかし

### 弁護士 佐藤 隆 志(98期)

日本大通り駅から徒歩4分、関内駅から徒歩8分  
〒231-0007 横浜市中区弁天通2丁目21番地 アトム関内ビル6階  
TEL: 045-319-4486 FAX: 045-319-4487 https://bay-ave.jp E-mail: t-sato@bay-ave.jp

真澄会の方  
初回相談料  
30分無料



ごあいさつ  
校長 小島 由美

令和4年4月、横浜平沼高等学校第32代校長を拝命し、今年で3年目を迎えました。明治33年の開校以来、社会で活躍する数多くの人材を輩出している歴史と伝統のある本校で校長として勤務できる喜びを日々感じて過ごしています。また、昨年度も、教育環境の改善のために横浜平沼高校を指

定した「まなびや基金」に多額のご寄付をいただき本当にありがとうございました。加えて、新設してくださった給付型奨学金は生徒の学びへの大きな援助となっております。真澄会の皆様の多大なるご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。生徒たちは学業、行事、部活動に充実した毎日を過ごしています。昨年度もハンドボール部の関東大会、インターハイ、全国選抜出場、かるた部の全国大会(近江大会)準優勝、ダンス部、美術部など、多くの部活動が素晴らしい結果を残しました。先日、その結果を知らせる校舎正面の懸垂幕の左下に「2025創立125周年」の横断幕が加わりました。来年の創立125年記念式典の実施に向けて、この4月に実行委員会を立ち上げ、準備が始まりました。心に残る

式典となるよう、真澄会与学校、PTAが協力してまいります。50年前、100年前の平高生と同じように、現在の生徒たちも優しく、穏やかで、何事にも一生懸命取り組む素晴らしい子どもたちです。そんな生徒の様子を多くの方に見ていただきたいと思い、昨年度から横浜平沼高校のホームページに「平沼日和」というコーナーを作りました。特別なイベントや部活動だけでなく、日常の学校生活を感じていただけるように発信しています。真澄会の公式インスタグラムのストーリーズからもリンクを貼っていただいていることがあり感謝しております。ぜひ、現在の学校の取組や生徒の姿を見ていただき、後輩たちを引き続き応援していただければ幸いです。



母校に赴任して  
教頭 川崎 幸

今年度、教頭として着任しました川崎です。よろしくお願ひいたします。私は82期の卒業生で大学時代は一時期ダンス部のコーチもしており、教員になろうと思ったきっかけも、この母校での学校生

活があったからです。母校に赴任することとなり、何とも言えぬ不思議な気持ちです。在学していた当時の校舎は、今とは全く違って薄暗く、夕方には蝙蝠が飛んでいたり、人が十数人描かれているとても大きな絵が廊下に飾られたりしていました。そんな昔のことに思いをはせながら、今の明るい近代的な校舎で過ごしていると、藤棚、心字池、校歌、体育祭でのファウスト等々を目にすることで伝統が次の世代へと引き継がれていることを知ることができます。母校の建物は違っても、この場所は夢を育くむ温床であり、未来への扉を開く鍵です。私が生徒だった頃、先生方はただ知識だけを教えるだけでなく、人として成長するため

の道標を示してくださいました。今、私はそのバトンを受け継ぎ、後輩たちが自分の目標に向かって進み、次世代のリーダーとなって社会を支えていく存在になれるよう全力で支援していきたくと思っています。私がかつて学び、成長した場所で、現代の生徒たちが生き生きと日々活動しています。そのような生徒たちを育てる横浜平沼高等学校を皆様とともに、さらに素晴らしい場所にしていきたいと強く決意しております。卒業生の皆様におかれましては、これからも母校を応援していただき、後輩たちの手本となっただければと思います。最後になりましたが、これからも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第22回 体育祭

第22回体育祭が5月10日(金)晴天のもと開催されました。開会式では「元気パワーで」「みんながんばるぞ」「団結」の掛け声が飛び交い、「絶対優勝」の手話にも全員で取り組みました。競技の一番目はファウスト。プログラムに(3年女子+3年男子希望者)とありましたが、今年は男子希望者がいなかったとのことでした。また、新しい競技の大玉転がし、クラス対抗8の字飛び、三人四脚の3種目



がありました。特に午後に行われた競技の「追いかけて玉入れ」は、得点が1個1点の玉のほかに「スペシャルボール」なる得点が1個3点の玉があり、最後まで勝敗の行方がわからずドキドキしました。それぞれの組で趣向を凝らした応援合戦の第1位は秋組でした。そして、全体優勝は夏組でした。



閉会式では校歌が高らかに歌われました。

第47回 平沼祭「沼 Real」

6月22日(土)、23日(日)に「沼 Real」をテーマに平沼祭が行われました。テーマには「平沼高校のリアルを知ってもらおう」という意味が込められているそうです。オープニングセレモニーでは小島校長が「来年の125周年にむけ、その記念事業の一つとして翠嵐高校との対抗戦も復活しておりいつもと違う盛り上がりを見せています。そんな特別な年の平沼祭、平沼のRealな素晴らしさ全開で、来場者を楽しませてほしい。」と話されていました。各クラス、部活動の工夫を凝らした展示や発表に加えて、コロナ禍で昨年までできなかった



調理もできるようになり、やきそば販売には長蛇の列ができていました。また、125周年を記念した物品販売(手ぬぐいやキーホルダーなど)も行われました。歴史資料展示室では、壁面に新たに張り出された資料を熱心に見る来室者の姿がありました。室内では6月15日(土)に行われた翠嵐との剣道対抗戦で紹介された平翠戦の優勝旗や貴重な写真、資料の数々を理事たちが解説していました。真澄会室にも大勢の卒業生や在職されていた先生方が来訪して下さり、懐かしく、嬉しい二日間になりました。

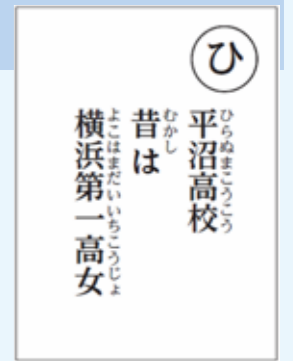
第106回全国高等学校野球選手権神奈川大会観戦記

対横浜隼人戦。初回いきなり4失点。反撃が期待されたが、0対9で無念の7回コールド負け。(7月7日於・保土ヶ谷球場)

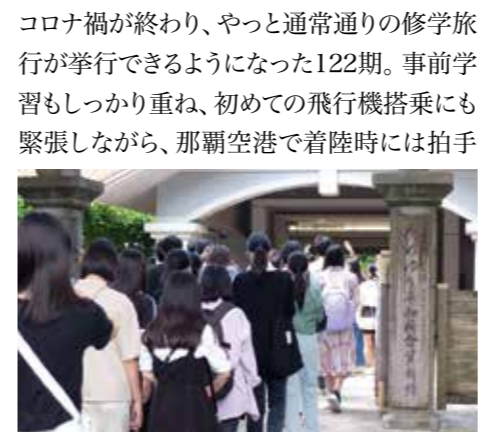


「西区今昔かるた」に  
取り上げられました。

西区ではかるたの貸し出しや、かるた大会も開催されるそうです。



122期 修学旅行 [2023年10月9日~12日]



コロナ禍が終わり、やっとなんて普通の修学旅行が挙行できるようになった122期。事前学習もすっかり重ね、初めての飛行機搭乗にも緊張しながら、那覇空港で着陸時には拍手

が沸くという、微笑ましいシーンから旅程は始まりました。平和祈念公園やひめゆり資料館などの平和学習では太平洋戦争ならびに沖縄戦の過酷さを、当時の体験を含めて生々しく知ることとなりました。マリン体験や黒糖作りなどのアクティビティでは、現地の方の歓迎とおもてなしの心を感じることができました。現地の外国人の家庭の方との約半日にわたる交流では、神奈川県ではなかなか体験できない英語体験をすることができました。また生徒が企画運営した学年レク会では、生



徒はもちろんのこと教員有志もダンスを披露するなど非常に盛り上がる沖縄最後の夜を過ごしました。全日程天候に恵まれ、途中何人かは体調を崩したものの、最後の沖縄修学旅行を大過なく終えることができました。

教諭・福永洋之

教職員人事異動 令和6年4月1日発令(敬称略)

転入										転出									
職務	氏名	出身校	職務	氏名	異動先	職務	氏名	異動先	職務	氏名	異動先	職務	氏名	異動先					
事務	荒木 琢也	保土ヶ谷高等学校	事務	紺野のぞみ	白山高等学校 事務長	養護	大浦 海咲	横浜立野高等学校	養護	宮崎 直美	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
音楽	石井 崇	横浜栄高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
保健体育	深谷 愛理	上溝高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
保健体育	杉田 悠美	麻生高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
保健体育	木村 拓矢	七里方高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
養護	近藤 倫子	新城高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
養護	甲斐 泰典	新採用	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
理科	石橋 篤人	横浜翠嵐高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
理科	依田 祐人	新採用	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
理科	伊藤 宏	旭高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
社会	藤原 啓太	新採用	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
社会	伊藤 啓太	新採用	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
国語	志方 大悟	麻溝台高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
国語	川崎 幸名	横浜国際高等学校	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					
教頭	川崎 幸名	異動先	養護	山本 敬伍	金井高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校	養護	若杉 拓哉	湘南高等学校	養護	若杉 拓哉	横浜水取高等学校					

★**在校生の活躍**  
(真澄会励励金贈呈)

○2023年度 下半期○

- ★女子ハンドボール部(個人)  
◇令和5年度国民体育大会関東ブロック大会(埼玉県)オール神奈川として、京都強化会館及び大会に出場  
大工原実音、兼弘真生、石橋友菜、前田芽生
- ★女子ハンドボール部(団体)  
◇第38回関東高等学校ハンドボール選抜大会出場(群馬県)  
◇第47回全国高等学校ハンドボール選抜大会出場(三重県)

- ★弓道部(団体)  
◇第23回東日本高等学校弓道大会出場(神奈川県)
- ★弓道部(個人)  
◇第42回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会出場 丸山和鼓、中野陽登、佐々木千晴
- ★ダンス部  
◇第31回神奈川高等学校ダンス新人大会優勝
- ★かるた部(個人)  
◇第30回関東地区学校小倉百人一首かるた大会(埼玉県)神奈川代表チームとして参加  
坂田晶葉、星野来実
- ★平井歩佳  
◇第43回全国高等学校読書体験記コンクール 文部科学大臣賞
- ★大西万愛花  
◇第16回全国高等学校英語スピーチコンテスト

- ★青木仁美  
◇CeeU Yokohama(イオンモール横浜西口)前公開空地名称「ラ・ポーズ(仏語:憩い広場)」と提案し決定
- 2024年度上半期○
- ★ダンス部(団体)  
◇日本高校ダンス部選手権春の公式大会東日本大会(千葉県)
- ★かるた部(個人)  
◇第48回 総文祭 神奈川代表チーム  
坂田晶葉、前田啓輔、吉野心逢
- ★弓道部(団体)  
◇第19回全国高校選抜遠征の弓道大会(第26回紫雲旗高校弓道大会)(福岡県)
- ★女子ハンドボール部(団体)  
令和6年度第75回全日本高等学校選手権大会(福岡県)

国公立大学		私立大学	
横浜市立大学	8人	神奈川大学	68人
横浜国立大学	7人	明治学院大学	58人
東京学芸大学	3人	明治大学	54人
東京都立大学	3人	専修大学	52人
埼玉大学	2人	法政大学	52人
電気通信大学	2人	東洋大学	47人
神奈川県立保健福祉大学	2人	日本大学	38人
信州大学	2人	青山学院大学	36人
九州大学	2人	駒澤大学	32人
弘前大学	1人	東海大学	31人
東北大学	1人	國學院大学	29人
秋田県立大学	1人	中央大学	27人
福島県立医科大学	1人	立教大学	26人
筑波大学	1人	東京都市大学	23人
東京外国語大学	1人	早稲田大学	17人
東京工業大学	1人	学習院大学	16人
川崎市立看護大学	1人	昭和女子大学	16人
富山県立大学	1人	成城大学	16人
金沢大学	1人	上智大学	15人
福井大学	1人	武蔵野大学	14人
大阪教育大学	1人	東京農業大学	13人
兵庫県立大学	1人	北里大学	10人
北九州市立大学	1人	玉川大学	10人
国公立大学合格者計	48人	日本女子大学	10人
		明星大学	10人
		関東学院大学	8人
		城西大学	8人
		慶應義塾大学	8人
		芝浦工業大学	8人
		千葉工業大学	8人
		日本薬科大学	2人
		東京理科大学	8人
		共立女子大学	6人
		成蹊大学	6人
		東京医療保健大学	6人
		産業能率大学	5人
		実践女子大学	5人
		湘南医療大学	5人
		大妻女子大学	4人
		工学院大学	4人
		国際医療福祉大学	4人
		帝京大学	4人
		東京工科大学	4人
		東京電機大学	4人
		日本赤十字看護大学	4人
		立命館大学	4人
		近畿大学	3人
		聖路加国際大学	3人
		東京女子大学	3人
		文教大学	3人
		麻布大学	2人
		桜美林大学	2人
		学習院女子大学	2人
		神奈川工科大学	2人
		関西学院大学	2人
		相模女子大学	2人
		武蔵大学	2人
		白鳥大学	2人
		横浜創英大学	1人
		立正大学	1人
		私立大学合格者計	885人

令和5年度卒業生数  
男子:108人  
女子:203人  
合計:311人

令和6年度入学者数  
男子:118人  
女子:201人  
合計:319人

121期生 進路状況	国立大学 合格	公立大学 合格	私立大学 合格	短期大学 合格	専門学校 合格
合格	24	18	750	0	7
進学	22	16	242	0	5

**弁護士 庄司道弘 (62期)**

真澄会の方、初回相談料30分無料

相続・遺言・借地借家  
離婚・会社法務・  
事業継承・法律相談


**横浜関内法律事務所**  
相談料5,500円/30分  
☎(045)212-1233(代)

事務所: 横浜市中区南仲通1丁目6番 関内NSビル2階  
TEL 045(212)1233(代) FAX 045(212)2233  
日本大通り駅より徒歩3分・関内駅より徒歩9分




●**西湘支部** 亀山(猪俣)幸江(64期)

2023年度の西湘支部会は、11月14日(火)に箱根湯本の福寿院で、箱根の芸者さんお二人をゲストに迎え、お座敷を体験しました。御住職(58期松根信子さんのご主人)による読経と法話の後、置屋を経営している杏さんのお話。うちくのある内容でした。若いり菜さんの踊りを観賞した後、2種の遊び(金比羅船船、虎トトラトトラ)を体験しました。参加する人、見る人、大いに盛り上がり、観音様もさぞびつくりされたのでは?真澄会から125周年に向けての取り組みの報告もありました。「先輩が、元気でいられる喜び幸せを実感しています。」と話され、一同うなずき、来年の再会を約束してお開きになりました。松根さん、事務局の安藤さん(68期)、貴重な体験をありがとうございました。




●**石川支部** 竹内(深野)優美子(77期)

今年も真澄会石川支部の食事会を2024年5月19日(日)に金沢ニューグランドホテルで開きました。出席者は71期重田(生山)玲子さん、50期今井(越智)淑子さんと私のいつものメンバーです。食事会は楽しくフランス料理を食べてお話ししました。たまにゆっくり食事してお話するのはいいですね。今年1月1日に能登で大地震が起こり、まだ珠洲のほうは半分しか水道が復旧していません。私の勤めていた金沢西高校には、能登5校の高校の教員と生徒たちが避難してきていました。今は能登の高校に異動になり、毎朝ボランティアの人たちが金沢から6時間半かけて能登に向かうのと一緒に通勤しています。私は通勤で疲れていますが、また来年も開ければいいと思います。\*真澄会では、神奈川新聞厚生文化事業団を通して石川県に救援金をお渡ししました。また救援金に対しお礼状も届いていることを報告します。




●**いづみ支部** 岡本康宏(通48期)

2023年11月11日(土)横浜駅西口駅前の「季節料理なかー」で、いづみ支部総会・懇親会を開催しました。いつも、総会・懇親会のハガキでの案内や飲食代の補助は、真澄会からの1万円や支部会員のハガキ寄付で賄っております。総会前には6名で、母校の歴史資料展示室や、校舎6階にある歴史資料の保管場所の見学も行いました。卒業後初めて来校された人もいて、皆様懐かしそうに見学していました。なかーでは真澄会の皆藤会長にも参加いただき、いづみ支部会員14名が参加し、初参加の方も2名いました。いづみ支部元理事の方も含め、近況を語り合い交流を深めることができました。なかーの後の2次会はカラオケをしました。今後もいづみ支部総会・懇親会を開催する予定です。



●**埼玉支部** 加藤(高橋)真理(67期)

2024年7月7日(日)、「大宮門街」WEST5階の叙々苑大宮門街店にて埼玉支部総会を開催しました。朝から太陽が照りつける暑い日でしたが、58期から80期まで16名のご参加をいただきました。美味しい焼肉を頬張りながら、テーブルごとに歓談して、お一人ずつ近況をお話しいただきました。フルマラソンに参加されたり、ご家族でミニコンサートを楽しまれたり、皆様から心と体の健康の秘訣をたくさん伺っているうちに、2時間半があつという間に過ぎてしまいました。来年は見学会も再開したいというご意見も伺いましたので、検討したいと思います。次回も元気で会えることを楽しみにしております。



**スマホ決済に対応しました**  
郵便局やコンビニに行かなくても、  
**自宅から会費を納めることができます!**

手順は別紙「会費納入のお願い!」をご覧ください。



ご利用いただけるスマートフォン決済アプリ  
PayPay LINE Pay au PAY pb PayB

**つむぎ法律事務所**  
弁護士 梅田 沙知 (旧姓 清水・99期)

〒350-0042  
埼玉県川越市中原町1-5-9 S & Tビル1階  
TEL 049-277-3297 <https://law-tsumugi.com/>

**フクナガ動物病院**  
FUKUNAGA ANIMAL HOSPITAL  
☎0748-33-5333

動物たちの「心」に耳をすませ  
丁寧な治療を心がけています

福永(岸村)めぐみ(103期)





2023年11月16日(木)に1年生を対象としたキャリア教育の一環として、社会の様々な分野で活躍している卒業生を講師とした「先輩セミナー」が行われました。昨年に続いて来校した講師のもとには、「質問がしたくて...」と昨年受講した2年生が授業を終えて駆けつけたり、講義時間の中で質問しきれなかった1年生が講師控室を訪れたりと活気あふれる様子でした。

\*各講師の講演内容、生徒の感想は「花橘」から転載しています。

### 新堀清正(67期)

元理化学分析センター長  
元関東学院大学講師



将来のイメージがあまり浮かばない「化学」という分野を活かした職業で働いている新堀さんにお話をいただきました。新堀さんは理化学分析センターで輸出入貨物の調査・鑑定をしている人です。今までに五、六千件の事案の分析を行ってきたそうです。今回のセミナーでは、新堀さんが担当したいくつかの事案を資料とともにお話していただきました。分析を1つ間違えるだけで膨大な被害が出ること、分析には化学だけではなく物理学や数学などのいろんな知識が必要だということをお話していただきました。

#### 感想

私が苦手としている分野のお話でしたが、分析した事案を資料を見せながら詳しく説明してくださったので楽しくお話を聴くことができました。分析1つするにもたくさんの知識が必要だということをお話して、勉強は大切なんだと改めて思いました。そのため、将来のために苦手な分野でもできるところまで知識を身に付けたいと思いました。

### 原 慎定(75期)

立正大学  
仏教学部教授



原さんは私たちに「人生の転機」をテーマとして、主に原さんが学生のときや僧侶をしているとき、大学教授をしているときに何を体験し、何を考え、どのように行動したのか、他にもさまざまなことをお話していただきました。宗教や文化は「自分を見つめ直すことのできる鏡」。原さんは最後にそう仰り、宗教のことを恐ろしいものなどとは思わず、真剣に学ぶことで人生をより深く味わうことのできる一種の考え方だということをお話していただきました。

#### 感想

私は当初、近年の事件や歴史を学んだ中で宗教にはあまり良くないイメージがありました。しかし今回のお話の中で「宗教や文化は自分を見つめ直す鏡だ」という言葉を聞いて、宗教の存在への理解が深まり、捉え方が大きく変わりました。宗教に限らず、自分を達観的にみるツールを活用し見聞を広めることが大切なのだと感じました。この先の人生で、進路や就職など幾度も壁にぶつかることがあると思います。その時はこの言葉を思い出し、自分を見つめ直してより良い未来を切り開いていきたいです。

### 清水孝二(73期)

グラフィックデザイナー・アートディレクター  
(株)エイチ・ツー・オー代表



「好きなことを仕事にすること」清水さんは、美術大学への受験や自身で会社を設立したこと、また、自身がデザインしてきた広告や製品などについてお話していただきました。進路を考える際には、自分が好きなこと・やりたいことを見つめ直すより具体的に自分は何が好きでなんの分野をしたいのかを考える事が大切だと教えていただきました。また清水さん自身が高校生から大学受験の相談を受けた時のことや、デザインをする時に何を考えるかなどの質問に答えてくださり、将来のことを具体的に考える事が出来ました。

#### 感想

私は、デザインの大学や、仕事とは関わるきっかけがなく遠い存在に感じていましたが、日々見るものひとつひとつがデザインされていると聞いて身近に感じるきっかけになりました。スマホアプリ1つでもたくさんのデザインが施されていて、考えたデザインでたくさんの人の生活に触れられるとても素敵な仕事だなと思いました。

### 森(石川)公美(79期)

東京ディズニーランド  
パレード衣装担当



「好きを大切に」ディズニーランドで衣装の手入れなどを行っている森公美さんは、もともとOLでしたが、「ディズニーランド関係で働きたい。」という過去の夢を諦めきれず、キャストになったと話していました。この話から、夢を叶えるのに遅すぎることはないということをお話していただきました。森さんは衣装品質の確認、服のクリーニング、出演者の着替えの手伝いなど1日にやる事がとても多いのですが、楽しく仕事をしていると話していました。好きという思いは本当に大切だなと感じました。

#### 感想

森さんの話を聞いた中で「衣装は着脱が簡単なものにする。」「ダンサーの衣装は動きやすいようにする。」という話が心に残りました。客だけでなく、園内のキャストにもそういった小さな配慮をしているところが森さんたちのすごいところであり、ディズニーランドのすごいところだなと思いました。こういった小さいことを当たり前のようにできるからディズニーランドは人気が出るんだなと感じました。また、「好き」という思いは何をするにも1番大切だということをお話していただきました。

### 大久保和彦(92期)

(株)ファクトリアル(IT関係)取締役



大久保さんは「いい感じにためになる」とITについて噛み砕いて分かりやすく教えてくださいました。大久保さんが学生時代に起業したこの会社は、企業が使うクーポンアプリを作っているそうです。起業当時はとても大変でしたが、それと同時に起業して良かったとおっしゃっていました。

また、仕事を選ぶ際には、何をやるかだけでなく、誰と仕事をするかも大切にしたいと教えていただきました。

#### 感想

大久保さんは誰と何をやるか、新しいことに迷わず挑戦するという2つのことを大切にされていて、本当に楽しんで仕事をしていることが伝わってくる、いつか自分もこんな風になりたいと思えるようなお話でした。学生時代に起業することやITというものは自分の中では選択肢がなく、大久保さんのお話は新鮮で視野が広がるものだったし、将来への期待や希望が高まるものでとても聞いていてためになりました。自分もしたいこと、やってみたいことへ変に考えないで全力で取り組んでいけるようになりたいと思います。

### 酒井一輝(103期)

管理栄養士・2級知的財産管理技能士  
フリーズドライ食品の商品開発



「においと香料」をテーマにして、実際に香料を嗅いでミニゲームを交えながら香料は食品や洗剤、飲料など私達の身近な様々なものに使われているというお話をしていただきました。また、現在お勤めしている香料会社のお仕事の内容や食品関係の進路に進もうと思ったきっかけなど、今後の私達の進路を考える上で大切なことを教えていただきました。

#### 感想

「香料は身の回りの様々なものに使われている」と聞いたときに、香料は私達の生活をとても豊かにしてくれているんだなと思いました。実際に酒井さんが持ってきてくださった香料を嗅いだとき、実物はそこにはないけれど、においだけでどんな食べ物かすぐに予想がつき、何よりもすごく嬉しい気持ちになりました。食べ物に限らず、化粧品やシャンプーなどの日用品も良いにおいがしたら使うのが楽しくなったり、気分が良くなったりするので、香料は私達の生活にすごく影響を与えているんだなと思いました。今までは香料を気にすることはなかったけれど、お話を聞いてすごく香料に興味を持ちました。これからは生活の一部として、当たり前にある香料のことを意識しながら生活してみたいと思います。

### 館野円花(109期)

昭和大学薬学部病院薬剤講座助教  
病院薬剤部勤務



「繋がりを大切に」薬剤師の館野さんは患者に薬を渡すだけでなく、薬を飲みやすくするゼリーの開発、医師が処方した薬の量や種類の再確認など様々なことをおこなっています。また、薬に関わる仕事において大切なことは、患者と医療従事者とのつながりであると教えてもらいました。その上で、様々な人とコミュニケーションをとることが大事だということも教えてもらいました。

#### 感想

薬剤師は薬を患者に渡すだけだと思っていましたが、実際は何倍も他のことをやっていたに驚きました。「どうやったら薬を薬に飲めるか。」と患者のことを第一に考えて活動する姿はかっこいいなと感じました。また、繋がること、コミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。自分が患者になった時は医療従事者の方と積極的にコミュニケーションをとって繋がりを作ってみたいです。

### 古賀菜摘(113期)

ラジオ構成作家



「死ぬときにいい人生だったな」と思いたい。古賀さんはもともとラジオが好きで大学二年生のときに放送作家コースを半年間体験し、この世界をもっと見てみたいと思い、ラジオ構成作家の道に進んだそうです。裏方であるこの仕事はラジオで行われる企画の台本を作る⇒放送中に読むメールの選択⇒演者会議⇒収録という順で進んでいきます。「まるで夏休みの宿題にずっと取り組んでいるような大変さ」があるようですが、ラジオ特有の演者とリスナーとの距離の近さや、面白い話を合法的に聞けるという楽しさもこの仕事にはあるそうです。また、進路については趣味やお金など何を優先するかは人それぞれということ、今を思い切り楽しんで数年後後悔しないよう行動する大切さを教えていただきました。

#### 感想

ラジオ構成作家のイメージから企画の段階までが仕事だと思っていたので収録中も演者が話しやすいように目の前で相槌を打つ役割があると知り驚きました。ラジオは私にとっても身近なものなので裏ではそんなことが起こっているのかと考えながら聞くことができ楽しかったです。また、古賀さんは高校時代演劇部の部長を務めながら、茶道部を兼部しテストは2週間前からきっちり計画して取り組んでいたと聞きました。スケジュール管理が重要な仕事だとおっしゃっていたので高校時代の経験が今に生かされているのかなと思いました。



ソフトボール部OG会 岸村(内田)恵子(71期)

2024年1月6日(土)、今年も恒例のOG新年会を開催しました。グラウンドをお借りできなかったため、親睦試合はできませんでしたが、開始時間を早めて、昼食のお弁当を食べながら、懇親会ができました。参加者それぞれ、近況報告や昔の思い出話に一喜一憂。現役生は104期を最後に休部となりましたが、こうしてOG会が開催できるのは、真澄会のお陰です。感謝いたします。来年は、ソフトボールの親睦試合もできるようにしたいです。OG会の会費の中から、元日に起きた能登半島地震の救援金として、神奈川新聞厚生文化事業団に寄付をさせていただきます。



横浜ぬらひま団 鎌田健二郎(76期)

1983年、吹奏楽部の卒業生によって結成された当団は今年創立41周年を迎えました。現在では誰でも参加できる一般市民吹奏楽団体と形を変え活動しています。



去る7月7日(日)神奈川県立音楽堂で、第36回吹奏楽演奏会「ぬらひま36」を開催いたしました。七夕の日ということもあり、吹奏楽の名曲「THE SEVENTH NIGHT OF JULY ~ TANABATATA ~」やジャズの名曲「テイク・ファイブ」などを演奏し、満員のお客様から拍手をいただきました。来年7月6日(日)には映画音楽を中心に神奈川県立音楽堂にて「ぬらひま37」を開催いたします。真澄会員の皆様にもご来場いただければ幸いです。詳細については決定次第、当団HP (<https://nurahima.amebaownd.com>)でご案内いたします。

よみがえる青春時代!

ハンドボール部OBOG会 小林正人(73期)

ハンドボール部の後輩たちのミラクルな快進撃に、OBOGはうれしい支援を続けています。現役は2年連続6回目の全国選抜大会出場を決めて、3年生を送る会と合わせて3月に壮行会を行いました。そして6月に連続12回目の関東大会出場を果たし、さらに2年連続4回目のインターハイ出場を決め、母校小ホールで校長先生、真澄会会長にもご列席いただき総勢70名で壮行会を行いました。一方シニアOBOGで活動している平沼マスターズは、企画した第1回東アジアマスターズ交流戦を2月にシンガポールで開催し、日本から3チーム・シンガポール4チームに加え香港・タイ・台湾・アメリカからも選手の参加があり、ハンドボールを通して国際交流を深めました。



青春時代!

バスケットボール部OBOG会 豊田哲志(75期)

2023年8月13日(日)に池田弘次さん(68期)の店(旭区の萬寿園)にて70期代中心の懇親会を行いました。2023年7月に埼玉支部会に参加させていただいた時に、偶然お会いできた渡部和久さん(77期)が参加してくれ、全体が少しだけ若返りました。OB会として組織的な活動はできておりませんが、年々少しずつ参加者の顔ぶれが新しくなるのは嬉しいものです。



体操部OBOG会 友谷哲男(73期)

体操部OBOG会は、年1回2月の第1土曜日に集まって親睦を深めてまいりました。しかし、体操部が廃部となって、卒業生がいなくなったこと、また、それまで参加していただいたOBOGも高齢となり、思うように参加できなくなりました。そこで2022年を以てOBOG会は解散いたしました。今までありがとうございました。

陸上部OB会 佐野(野村)紀子(79期)

2023年7月16日(日)、大森先生ご夫妻の喜寿の祝いを行いました。お二人は高校の同級生。先生は奥様に支えられ自由な人生を過ごされてきたのではないのでしょうか。九州から日帰り参加した方を始め約40人が集まりました。皆でエピソードを語りながら、それぞれの青春時代に思いをはせました。私たちは平沼高校陸上部から羽ばたき、それぞれの人生を過ごしています。そして大森先生と過ごした大切な時間が、私たちの人生の1ページにあることを改めて心に刻みました。今、還暦を迎えた私たち同期もより一層飛躍していきたいと思っております。いつまでも先生ご夫妻をはじめ、先輩・後輩の皆様が健康で幸せでありますように。そして今後も傘寿、米寿のお祝いしたいと思います。



吹奏楽部後援会 若奏会 佐久間(津久井)まゆ(103期)



吹奏楽部後援会若奏会(わかなかい)は、2007年に発足した吹奏楽部の卒業生による後援会です。昨年も10月に現役生との交流会を実施し、『校歌』『宝島』などの合奏を行いました。その後の食事会では卒部生同士でも交流を深めました。他には、広報活動として連絡先のわかる卒部生(569名分)に定期総会案内ハガキの送付、支援金として後援会費から5万円を吹奏楽部に送りました。今後も吹奏楽部が充実した活動ができるよう、また卒業後も部とのつながりが持てるよう活動していきたいと思っております。ご興味のある方は案内をお送りしますので下記までご連絡ください。wakanakai\_hwo@yahoo.co.jp

横浜平沼藤弓会 指田意生(100期)

【安土幕を寄贈しました】弓道場の安土幕は平成4年OB会寄贈、実に30年以上も使われていました。ところどころ穴が開き、傷みが激しくなってきたことから、このたび本会より新しい幕を寄贈しました。贈呈当日の設置は現役生にも手伝ってもらい、にぎやかに贈呈式を執り行うことができました。綺麗な幕で心機一転、日々の稽古に励んでいただければと思います。本会は弓道部OBOGで組織する弓道団体です。卒業後も気軽に弓道を続けたいというOBOGの受け皿となるべく活動しています。毎月、本校弓道場にて現役部員との合同練習会を開催していますので、ぜひ一度足をお運びください。横浜平沼藤弓会 yh.tokyukai@gmail.com



横浜平沼山岳会YHAC 青木康男(70期)

高校山岳部OBOGを母体に、最年長は50期生を筆頭に設立70周年になりました。会の山行としては、昨年9月の宝永山バスハイキング、奥多摩紅葉の高水三山ハイクを実施、2024年に入っては鎌倉山桜ハイクを開催。いずれも一般山行として、高校OBOGの方であれば参加歓迎、真澄会ホームページに告知させていただき、ご案内しております。山歩きをしたいなと考えている方はぜひ一緒に参加しませんか? なお、YHAC創立70周年記念 ケルン特別号として最近の山行記録、会員による山岳俳句、集合写真などを掲載した46ページの冊子を作製しました。ご興味のある方は実費1,000円でお譲りいたしておりますのでご連絡ください。受付:divyama3033@gmail.com 青木まで。



**細水写真館**  
細水 亨 (63期)  
〒220-0023 横浜市西区平沼1-33-18  
TEL (045)321-4202  
FAX (045)321-4255

TEA & COFFEE  
**あひるて**  
〒231-0043 横浜市中区花咲町3-96(音楽通り)  
☎(045)242-8339  
しとり  
優文 敏夫(64期)

**SDKK 新興電設工業株式会社**  
電気設備工事・電気通信工事・管工事  
住所：〒220-0042 横浜市西区戸部町2-46-1  
電話：045-241-7711  
代表取締役 池松 忠彦 (62期)  
工事部 竹田 拓矢 (110期)  
https://www.shinkodensetsu.co.jp

野球部OB会 今井哲志(75期)

私たちは、コロナ禍で長い間中断されていた神奈川県立五校(希望ヶ丘高、横浜翠嵐高、横浜緑ヶ丘高、横浜立野高、横浜平沼高)野球部OB友の会の、軟式野球対抗戦の再開を検討しています。過去10回開催された対抗戦で平沼高校野球部OB会は4回の優勝を果たしています。大会の再開を願いつつ、平沼高校グラウンドで途切れていた練習会を4月7日(日)に開始し、5回目の優勝を目指して頑張っています。さて、現役選手・マネージャーに対しては、6月8日(土)のOB総会の後の激励会で、健闘を讃え、エールを送るとともに、母校野球部に寄附金を贈呈しました。



バレーボール部OB・OG会 埴田 徹(70期)

横浜平沼高校バレーボール部OB・OG会は、現役の活動援助とバレー部OB・OGの懇親を深めることを主な活動目標としています。現役の活動ですが、残念ながら男子バレーボール部は部員不足により活動しておりません。また、女子バレーボール部も一時6名の部員が集まらず、他校と合同チームを組み活動していた時期もありました。現在は、10名以上の部員が集まり、各大会に単独チームとして出場しております。現在の6人制バレーボールを観ていると驚かされるのは、選手の出入りが頻繁に行われたり、相手サーブをオーバーハンドパスでレシーブしたりすることです。我々がプレーした頃とのルールの違いに驚かされています。

横浜室内管弦楽団 岩田(大塚)由紀(87期)

横浜室内管弦楽団は1978年にオーケストラ部の卒業生により設立されました。創立当時の音楽監督、笠原勝二さん(72期)の指導のもと、昨年114期のメンバーが加わり、幅広い世代で活動しています。今年4月には県立音楽堂で演奏会を開催し、ブラームスの交響曲第1番などを演奏しました。当団では、団員を募集しております。仕事を持っている人たちが週末に集まって活動しています。お気軽にお問い合わせください。詳細は当団ホームページへ  
\*第60回演奏会のお知らせ  
日時: 2025年4月20日(日)14時開演  
場所: 神奈川県立音楽堂  
曲目: モーツァルト 交響曲第39番変ホ長調K.543  
ベートーヴェン 交響曲第6番ヘ長調 op.68 [田園]



The bonds within us.

不動産の事なら何でも  
お気軽にご相談下さい  
(賃貸、売買、相続の節税対策、資産の活用等)  
宅地、建物取引業、知事免許(14)第7147号  
(公社)神奈川県宅地建物取引業協会会員  
株式会社 やまと  
桂 茂(62期)  
〒232-0032 横浜市南区万世町1-4やまとビル1階  
TEL 045-261-0325 FAX 045-252-3071

千葉県貴公(94期)  
春待ち便り  
《恋酒盤》《雨雪盤》好評発売中  
YOUTUBEチャンネル

株式会社 アルテ ジェネシス 〒231-0028 神奈川県横浜市中区鶴町1-4-1  
アルテマリンウェーブビル5階 TEL.045-663-6123  
代表取締役会長 吉原 直樹(71期)  
Ash  
Choki Peta  
株式会社アルテジェネシスは美容サロン事業を展開するグループ各社を統括し、店舗開発・賃貸、教育、流通、宣伝企画等の経営指導面で各社をサポートしております。国内では関東圏を中心に展開するAsh124店舗、ChokiPeta71店舗、関西圏に展開するNYNY37店舗をはじめとして347店舗。国外ではシンガポールへ1店舗展開しております。  
(2024年6月末現在)

ますみだより

会員からひとこと

会費納入振込用紙の通信欄を活用して、皆さまの意見や近況ミニ情報を募集しています。寄せられた短書を「ますみだより」として会報に掲載しています。

◇昨年連れ合いが亡くなり、私も95歳のためホームへ入りましたので、真澄会からのお便りは今回で止めていただきたいと存じます。長い間ありがとうございました。四年で卒業、学校へ行けたのは2年少々でしたが、私にとりましては、やはり青春でございました。  
永井(原)富士子さん(42期)

◆お世話になっております。39期平沼登喜江は3月11日に老衰のため亡くなりました。真澄会が大好きで、同期会だより「銀」の発行などを楽しんでいました。ここにご報告させていただきます。ありがとうございます。  
丸山環さん(72期、故平沼登喜江さん長女)

◆40期丸田富子は、2023年12月6日永眠しました。意識が混濁し、呼びかけにも応えることが少なくなってしまう時に、耳元で校歌を流したらパチッと目を開いてくれました。Youtubeに校歌を載せてくださったこと、本当に感謝しています。  
飯田早苗さん(71期、故丸田富子さん長女)

第53期 夏目 守宣

1年4組のクラス会(共に米寿を祝い合う会)53期生1年4組のクラス会を開催、8名が参加しました。五月晴れにはほど遠い、雨・風の強い5月13日(月)、真澄会室で。ウーロン茶で乾杯、崎陽軒の赤飯弁当で昼食。話題は、毎回のことながら『なぜ1年4組だけ男女Mixだったの?』今となっては確かめるすべのない永遠の謎、そして気になるのはクラスメイトの消息、『〇〇さんは今どうしているのかしら?』etc.  
楽しい5時間を過ごし、来年のクラス会を

2025年5月19日(月)に決定。「米寿共祝」、虎屋のミニ羊羹を土産に解散。



第58期 館 憲紀

私たち58期1年1組は65才(2008年)の同期会を機に、翌年第1回クラス会を開催し、喜寿(77才)クラス会を目指して毎年開催してきました。その後第12回喜寿クラス会を計画中コロナ禍により中止、3年を経て第12回傘壽クラス会を2022年11月30日(水)にホテル・ザ・ノット ヨコハマで開催いたしました。これからは米寿クラス会を目指そうと今回2024年5月21日(火)に同ホテルで第13回クラス会を開催いたしました。小人数ながら和気あいあいとした楽しいクラス会となりました。

終身会費 納入者

*宇佐美(佐野) 英子 [61]	山崎(山村) 美子 [60]	河原 満昭 [65]	西田(松原) 恵子 [67]	木下(木下) 尚美 [69]
*下徳 隆 [63]	内山 順子 [60]	菅谷 美知子 [65]	中丸 和行 [67]	数田 早苗 [69]
*皆藤 慎一 [62]	吾妻 敬子 [60]	安藤(田谷) 啓子 [65]	中丸(小山) 友子 [68]	増澤(篠原) ひとみ [69]
*工藤 加代子 [62]	牧山 敏孝 [62]	高堂(岩田) 登志美 [65]	関口 優子 [68]	山田(木下) 小夜子 [69]
*佐藤 真一郎 [64]	早川(城戸崎) 康子 [62]	中嶋 修 [65]	石井(安藤) こずえ [68]	松岡 孝子 [69]
*竹島(水谷) 美登里 [65]	張(落合) 美津子 [62]	斉藤(藤) 彰世 [66]	野田(荒井) 久美子 [68]	堀(荒井) 良子 [69]
*伊藤(岡) 由利子 [65]	梶原(池田) 尚子 [62]	萩原(荒木) 貴久枝 [66]	池田(岡野) まき子 [68]	末永(岩脇) 隆子 [69]
*須賀(福井) 真理子 [65]	山本 明雄 [62]	寺島(原川) 由紀子 [66]	矢野(名本) 益子 [68]	山本 美智子 [73]
*佐相(柳) 洋子 [65]	齊藤(杉山) 晴代 [63]	渡辺(富田) 美和子 [66]	並木(井上) まり [68]	源 聡 [75]
*葛和(岩田) 幸子 [66]	有馬(名田) 翠 [63]	島村(猿田) 真喜子 [66]	金子(渡辺) 宏子 [68]	内田(山田) 久美子 [75]
*日高 学 [66]	谷口 好宏 [63]	佐藤 徹 [66]	戸井(遠藤) 浩 [68]	小佐野 郁子 [75]
*石川(河野) あや子 [66]	明石(森田) 和子 [64]	山本(西山) 晴美 [66]	古川 敏雄 [68]	久山 喜昭 [通10]
*阿部 はる美 [67]	樋田(益村) 佳代 [64]	清水(藪島) 由美子 [67]	柳生(宮下) 真理子 [68]	秋山 昇男 [通16]
*時政 英二 [67]	宮田(室町) とみ子 [64]	雨宮(若林) 朝江 [67]	長谷川 薫 [68]	細川 芳枝 [通22]
*櫻井 秀吉 [通23]	新田 洋子 [64]	高木(藤田) 和子 [67]	宮田(柁崎) 和子 [68]	大山 照子 [通25]
*川崎 時子 [通34]	並木 静雄 [64]	丸山 恵子 [67]	中込(加納) 真弓 [69]	五味淵 忠 [通26]
柳(川上) 裕子 [59]	村松 利夫 [64]	新堀 清正 [67]	池上(唐沢) 永子 [69]	五味淵 美枝子 [通26]
古川 千賀子 [59]	鈴木(白井) 正子 [64]	熊谷 治 [67]	志澤(黒岩) 留美子 [69]	五十嵐 サイ [通31]
横山(石毛) 和子 [60]	小串 幸枝 [65]	田中 信義 [67]	原(山下) 潤子 [69]	新崎 トヨ子 [通39]
平沢(土浦) 澄子 [60]	本多(関沢) 希糸子 [65]	佐藤(中川) 晶子 [67]	大木(山田) 真知子 [69]	
田代(田中) 絹代 [60]	高橋(中田) 弥生 [65]	笠原(逸見) 多美子 [67]	蓮沼 曜子 [69]	

寄付金

* 30,000円 小川 正勝 [65]	15,000円 白井(松田) 鏡子 [54]
* // 戸井(遠藤) 浩 [68]	13,076円 Reunion79期同期会 [79]
* 10,000円 三枝 学 [65]	榎本 真一 [65]
* // 川崎 時子 [通34]	12,000円 高橋 啓美 [79]
100,000円 須藤 愛子 [50]	10,000円 新堀 清正 [67]
89,000円 82期同期会 [82]	// 城所 弘美 [通34]
50,000円 河原 満昭 [65]	// 38会伊勢原支部 [60]
50,000円 佐藤(中川) 晶子 [67]	// 阪本(野口) 敏子 [60]
32,400円 浅井(天野) 裕司 [66]	// 皆藤 慎一 [62]
30,000円 松澤(松澤) 正代 [52]	// ソフトボール部OG会
29,000円 60期同期会 [60]	9,380円 河野 工 [64]
21,000円 関西支部	8,000円 菱山(田中) 奈津子 [59]

サポーターズ倶楽部

5,000円 綾部(鈴木) 和子 [61]	10,000円 深澤 貴光 [81]
// 長島 佐和子 [通30]	5,000円 ますみ校歌祭合唱団
5,000円 牛島 朋子 [通33]	1,000円 佐藤 智嗣 [92]
3,880円 萩原(高安) 久美子 [67]	1,000円 佐藤(小野寺) 裕子 [78]
3,000円 川原(関谷) 芳子 [60]	
// 水原(西原) 裕子 [69]	
// 岡本 康宏 [通48]	
1,000円 横山 年子 [通49]	
// 八木 昭宏 [69]	
// 芹澤 秀尚 [通48]	
// 菅原 広子 [通27]	

[注]  
2023年8月~2024年7月までに  
寄付をいただいた方々。  
氏名後のカッコ内は卒業期。

\*印の方は 本来ますみ64号で掲載すべきだった方です。遅れて66号での掲載になりお詫び申し上げます。

同窓会は皆さまの会費で運営されています。会費納入にご協力をお願いします。

学生時代、時に窮屈に、時に誇らしく感じながら身を包んだ制服。今回は初代から現在に至るまでの制服の変遷を歴史資料展示室所蔵の写真からたどる。

### 初代制服 1901(明治34)年制定

初代校長新原俊秀は、当時、都会の女学校生徒がとかく派手な着物を競い合っていたことを苦々しく思っていたようである。衣服を統一すれば奢侈(しゃし=ぜいたく)を防ぎ、保護者の経済的負担も減らせるとの考えから全国に先駆けて職員生徒の服装を「洋服または短袖、茶袴」と規定した。着物の柄は地味なものなら何でもよく、袴は海老茶と決められていた。袂が無く袖口を紐でくくった、洋服のような短袖(筒袖)は「男の着るもの」のようだと敬遠する向きもあった。【写真1】は1期生入学時のもの。



【写真1】初代制服

### 2代制服 1915(大正4)年制定

筒袖が角の丸い短めの袂の元禄袖にかわり、従来自由であった着物の柄も矢筈模様と決められた。この柄は当時図画科の教諭だった山辺知臣によって「神」「川」「女」を図案化したもので、夏服と冬服では色を逆さにした。地味な色合いのため、修学旅行先では「ビール工場の女工」に間違われたり、教師からは「雑巾の山のように」と評されたりしたとの証言があるが、生徒にとっては県下随一の名門校のシンボルとしての誇らしい装いだった。【写真2】は1921(大正10)年高女3年の春季箱根修学旅行。制服での記念撮影。



【写真2】2代目制服

### 洋装初代制服 1930(昭和5)年制定

校名が神奈川県立高等女学校から神奈川県立横浜第一高等女学校と改称されると同時に新しい洋装の制服が制定された。三代目となるこの制服は、ジャンパースカートに白ブラウスというもので、都大路を歩いても恥ずかしくないと喜ばれたスマートなものであった。紺のサージ シングルの上着にジャンパースカート。ジャンパースカートの襟ぐりは現在の制服より丸みを帯びている。耐久徒歩(学校から鎌倉へ)も制服で行われた。【写真3】は1931年4月25日戸塚付近の様子。



【写真3】初代洋装・耐久歩

### 戦時中の様子

1941(昭和16)年から、政府は、物資の不足を理由に各校の制服を全国画一の様式に改めさせたが、【写真4】は1943(昭和18)年4月から正課となった雑刀の授業を、洋装の初代制服姿で受ける様子。

戦況の悪化から、1944(昭和19)年には、スカートにかえて、「戦時規格」としていわゆるモンペ状のものが制服として指示される。【写真5】は全員戦時規格スタイルの1944(昭和19)年度3年生。

◀【写真4】なぎなた  
▼【写真5】モンペ



【写真6】50期生

### 共学実施当初 1950(昭和25)年

横浜平沼高等学校の標準服として男子は黒の詰襟に折り返しなしのズボン、女子はジャンパースカートが定められたが、共学一期生の入学時の様子【写真6】を見ると、男子は「国民服」と「詰襟」、女子は洋装の初代制服に中学で着用していたと思われるセーラー服などが混在している。男子の詰襟は現在まで変わることなく「男子平高生」の制服となっている。

### 男子の制帽

創立50周年記念運動会(1950年)でのスクエアダンス【写真7】、1957(昭和32)年の翠嵐高校との体育対抗戦開会式(三ッ沢競技場)【写真8】、いずれも制帽を着用している。1965(昭和40)年 brass band部の男子【写真9】は詰襟に全員が制帽姿。

1968(昭和43)年頃には、学園紛争の影響で制服の廃止に踏み切る学校もあり、本校でも制帽は強制されなくなった。



【写真7】スクエアダンス



【写真8】平翠戦



【写真9】ブラスバンド

### 洋装2代目制服1955(昭和30)年制定

女子の制服が、背広型ダブルの上着と24本ひだのジャンパースカートに定められた。スカート丈やはやりの靴下など、着こなしに時代の流行を反映しながら現在まで受け継がれている。夏は夏用の生地でジャンパースカートを誂えることもあった。一時期、夏の略装として「白色、コットン」のオーバーブラウスが採用されていたが短期間で廃止された。【写真10】は1973(昭和48)年ごろの夏の装い。



【写真10】オーバーブラウス

### そして現在

現在、学校の服装規定では、女子の略装として腰止めのスカートが認められており、普段はジャンパースカートを着用しない生徒も多い。ジャンパースカートは「特別な時」に着ますと話してくれた

生徒もいる。また、ジェンダーレスの時代を迎えて、女子のスラックスも正装として認められるようになった。

### 歴史資料展示室から

真澄会の歴史資料委員会は、6月12日(水)13日(木)の二日間、1年生対象の「校史教育」のお手伝いとして、4人の真澄会員が生徒たちに展示室を案内しました。生徒たちは事前にタブレットで事前学習用のスライドを見たり、スマホにワークシートを取り込んだりと、準備万端整えた様子で来室。熱心

に見学していました。来年学校の中心として活躍が期待される生徒たちです。125周年記念事業の一環として「平翠戦」の復活が動き出し、また校歌を歌う機会も増えることを考え、私たちは、「平翠戦」の歴史と「校歌」について例年より詳しく、心を込めて説明をしました。

# 十年ひとふし

同期会・クラス会開催報告

## 第75期 佐藤(山本)祥子

2024年5月26日(日)、ホテル・ザ・ノット ヨコハマにて同期会を行いました。本来なら還暦の年に行う予定でしたが、コロナの影響で延期、延期となり、前回の同期会から8年ぶりの開催となりました。



当日は69名が参加して、簡単なクイズや、当時の応援団副団長のリードによる校歌斉唱などもあり、高校時代に戻ったような楽しい3時間を過ごしました。

75期の皆さま、次回のお知らせも会報に同封するかと思いますので、必ず毎号ご覧くださいね。また会えるのを楽しみにしています！  
なお、これまで7回開催した同期会会費の繰越残額について、参加者の同意を得ましたので、母校125周年を祝って真澄会に寄附することとします。

## 第67期同期会報告 田中 信義

2024年5月29日(水)午後12時から、横浜駅東口の横浜崎陽軒にてコロナ禍で開催出来なかった同期会を5年ぶりに開催しました。平日の昼12時からと言う初めての試みでしたが、67名の参加を頂いて久しぶりの楽しい3時間を過ごしました。来年は卒業55年、母校創立125年です。それらを踏まえて開催したいと思っています。



## 第79期 小林(山下)陽子

2023年8月27日(日)横浜市神奈川公会堂にて、79期中心の音楽コンサート「リユニオン繋ぎ直せる奇跡-Reunion concert-」が行われました。

「79期生」に音楽家として活躍している人が多いことから、声楽家の吉岡小鼓音さんが中心となりコンサート実行に向け同期に呼びかけました。その輪が同世代、さらに世代間につながり、多くの真澄会員の方々のご



賛同やご協力を得ることができ、まさに人々の絆を織りなすようなコンサートが作り上げられました。還暦を迎える年に初めて同期会を兼ねた音楽会として、プロの演奏家を含め約25人が出演し、大盛況のうちに終えることができました。加えて、恩師、佐藤一夫先生に捧げるコンサートにもなりました。フィナーレでは、二宮玲子さん(75期)による新たな編曲の校歌が披露され、舞台と会場の全員が一体となった母校校歌の大合唱となりました。

\*フレックス版校歌の楽譜  
いかなる楽器編成にも対応可能な校歌のフレックス版楽譜が行方不明になっていたため、作曲家の二宮玲子さん(75期)がアレンジ。この校歌編曲記念楽譜を母校に贈呈されました。この貢献に対し母校より感謝状が贈られました。(詳細は、巻頭記事をご覧ください)

## 第82期 はじめての同期会 加藤(新山)未知

2023年10月9日(月・祝) ホテル・ザ・ノット ヨコハマにて、38年目の初めての同期会を行いました。

半年前から準備スタート。真澄会に節目祝を申請、事務局に住所判明者約280名への郵送をお願いしました。結果的に連絡者171名、そのうち出席104名となりました。評議員の酒井貴久さんの名司会で、登壇者へのインタビュー、撮影会、懐かしいエピソード披露など、さまざまな仕掛けで盛会へと導いてくれました。森本幹雄先生、粕谷元太郎先生、有森斉先生、鈴木豊男子先生からメッセージを頂戴しました。同期からは、米国からこの日の為に帰国された野坂庸介さん、3年生半ばで転校の為卒業アルバムに掲載されなかった評議員の田中一寿さん、北海道釧路の猛禽類医学研究所で活動されている齋藤慶輔さん、昨年まで母校副校長の吉野哲也さんにそれぞれ司会者からのインタビューでお話いただきました。欠席者からのコメント発表、歓談時には、真澄会HPにUPされている「ファウスト」動画や卒業アルバムなど懐かしい写真を投影しました。会話に夢中のあつという間の3時間でした。吉野さんの締めのご挨拶で、次回の同期会の幹事はサッカー部の境正利さんに決定となりました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。今回ご都合つかなかった方々も次回のご参加をお待ちしております。会費より50,000円を猛禽類医学研究所に、89,000円を真澄会に寄付させていただきます。



## 第119期 20歳を祝う会 深山 俊輔

2024年1月6日(土) ホテル・ザ・ノット ヨコハマで、二十歳を祝う会を開催しました。200名を超える同期生が集い、担任の先生方も大勢お祝いにかけつけてくださいました。



伊藤(武井)美栄子さん(57期)を偲ぶ

伊藤美栄子さんが亡くなられたとの報を、3月1日にご主人の光男さんからいただいた時、驚きと「なぜ」という気持ちで一瞬茫然としてしまいました。いつも元気に子どもたちに水泳の指導をされていて、障害をもつ子どもたちの指導にはひとときわ力を入れて、その成長を嬉しそうに語っていたからです。伊藤さんは、母校創立百周年の時の歴史展の実施に尽力し、その後、歴史資料展示室設立委員として2003年9月の開館にごぎつけ、以後は委員長、スタッフとして力を注いでくださいました。展示室は開室二十年後に来室者四万人を数えるに至り、中学生や保護者などに母校を理解する力となっています。

伊藤さんについて特筆したいことの一つは人のつながりを大切にすることでした。歴史資料委員一人ひとりが楽しく活動できるように、時には食事会、時にはハイキングなどを企画してくれました。工事業者との連絡も綿密にしてくれました。もう一つは委員会の運営や展示の内容、方法などについて様々なアイデアを出してくれたことです。その他紙面が足りないくらい書きたいことがたくさんあります。ここに伊藤美栄子さんにつながる多くの人々の思いを込めてご冥福を心からお祈り申し上げます。安らかに眠りください。  
中村 英信(58期)

### 訃報

小山和夫先生(社会) 2022年10月15日 加藤英夫先生(英語) 2023年2月15日 溝口碩垣先生(数学) 2024年1月31日  
安田伊男先生(倫社) 2023年2月28日 野尻正幸先生(数学) 2023年11月

## 第18回 青春かながわ校歌祭

2023年10月21日(土) 県立青少年センターホールにて第18回青春かながわ校歌祭が開催されました。横浜平沼高校真澄会は5年ぶりに70名を超える合唱団で出場しました。オールナイトニッポンで人気を博した齋藤安弘さん(56期)の素晴らしい学校紹介の後、「校歌」と「Tomorrow」を歌いました。指揮は、「校歌」が清水栄里さん(72期)、合唱活動でのお名前は牛草栄里さん、「Tomorrow」が吉田孝古廬さん(50期)、伴奏は深井利枝さん(85期) [音楽活動でのお名前]で現在の姓は田原が行いました。「Tomorrow」では吉田孝古廬さ



んのタンバリンに合わせて自然と会場から手拍子が起こり、舞台と客席が一体感で包まれました。ご出演、ご来場の皆様、当日の運営等のスタッフの方々、どうもありがとうございました。第19回は、2024年9月21日(土) ひらしん平塚文化芸術ホールで開催予定です。(神奈川新聞でも記事が掲載されました。[有料記事となります])

## 横浜市史資料室からのお知らせ 真澄会誌が展示されています。

横浜市史資料室 室内展示  
雑誌にみる女性たちの集い  
—『令女界』と女学校同窓会誌から—

昭和初期の頃、女学校を卒業した女性たちには、①家事手帳、②上履手帳に渡す。③職業婦人になる。という3つの義務がありました。結婚すると家庭に入る女性が多かった時代、それまでの時期をどのように過ごしたか、女性たちの思いも、「女子青年」には「結婚して女学校」の同窓会グループや女学校の同窓会誌から読みます。

『令女界』第29号(1933年3月) 『女子青年』第15巻第3号(1934年3月)

【会期】2024(令和6)年  
7月27日(土)～11月9日(土)

【休館日】毎週日曜日、横浜中央図書館休館日  
(毎月19日、9月17日、10月15日、11月9日)  
【時間】午前9時30分～午後5時  
【会場】横浜市史資料室  
横浜中央図書館2階 / 横浜中央図書館地下1階  
【電話】045(251)3260  
【FAX】045(251)7321  
【Eメール】shiryu@ml.city.yokohama.jp (随時更新)

志賀社会保険労務士・行政書士事務所  
志賀一史(71期) お気軽にご相談ください！

〒220-0023  
横浜市西区平沼2-2-1第2三光ビル603  
TEL : 045-620-0268  
FAX : 045-620-0269  
E-Mail : shiga.kazufumi@gmail.com

労働保険 建築業許可  
社会保険 会社設立  
就業規則 遺言・相続  
残業・解雇 成年後見

1914年創業  
パン市場 はまだぶんでん  
Hamada Bunten

無添加で美味しい安全なパンをオンラインにて全国へお届けします

〒239-0822  
神奈川県横浜須賀野浦賀5-7-5 / ☎046-841-0046

74期 旧姓：松本 濱田 恵里 オンラインShopはこちらから

## 会員の作品

「ももふねちふね展」(2024年8月7日～12日横浜高島屋画廊にて)に出品された作家の作品です。展覧会の様子は来年のますみ67号でご紹介いたします。



【絵画】  
今井 陽子(77期)



【日本画】  
鳥山 玲(71期)



【アニメーション】  
伊藤 有希(78期)



【油彩画】  
浅野 信二(82期)

【創作家具】  
安藤 和夫(68期)



【漆芸】  
小川名 樹(115期)



【写真】  
三小田 智子(77期)



【陶器・モザイク】  
飯野 夏実(99期)



【根付・書家・和小物】  
向田 陽佳(84期)

真澄会ホームページからも登録できます▶

真澄会室

1125予約

真澄会室のご利用予約が  
ホームページからできます。

### 真澄会のSNS

真澄会では、有志の方にご協力いただき、SNSを通してさまざまな情報を発信しております。ぜひフォローやお友達登録をお願いいたします。



こんにちは！真澄会事務局です

事務局は、毎週火曜日に在室しております。連絡事項、問い合わせ等は、10時～15時の間にお電話ください。

Tel: (045) 311-3356 E-mail: jimukyoku@masumikai.org

事務局：岸村(内田)恵子(71期)  
高橋(高橋)節子(75期)  
HPスタッフ：小林(山下)陽子(79期)  
日下(川崎)由佳(84期)  
祖父江(坂上)美也子(100期)  
森(相澤)真梨(108期)  
総務スタッフ：中村(大村)晴美(71期)  
保坂(藤牧)泉(79期)



高橋 小林 岸村

### 編集後記

母校創立125周年記念行事に先立ち、今号では「校歌を語る座談会」を企画いたしました。次の67号でも母校の歴史にまつわる話題を取りあげたいと考えています。どうぞ楽しみにしてください。

広報委員 桐生 達夫(65期)  
山本 克己(72期)  
豊田 哲志(75期)  
鈴木(茅野)久美子(75期)  
柴田 康男(73期)  
須藤 尚紀(78期)  
スタッフ:佐藤(山本)祥子(75期)



真澄会の  
ホームページ

[https://masumikai.securesite.jp/sp20/sp\\_main/](https://masumikai.securesite.jp/sp20/sp_main/)

## 神奈川県立横浜平沼高等学校同窓会誌 ますみ(真澄会報)第66号

発行日 2024年(令和6年)9月1日  
発行所 神奈川県立横浜平沼高等学校同窓会 真澄会  
発行責任者 皆藤 慎一

〒220-0073 横浜市西区岡野1-5-8 横浜平沼高等学校内 電話 (045)311-3356

